



2022年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月14日

上場会社名 株式会社Sharing Innovations 上場取引所 東
 コード番号 4178 URL <https://sharing-innovations.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯田 啓之
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CF0コーポレート (氏名) 西田 祐 TEL 03 (6456) 2451
 マネジメント部門長
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第3四半期の連結業績（2022年1月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第3四半期	3,925	19.1	164	△39.6	168	△38.8	105	△42.1
2021年12月期第3四半期	3,297	20.0	271	62.2	275	62.8	181	89.2

(注) 包括利益 2022年12月期第3四半期 103百万円 (△42.9%) 2021年12月期第3四半期 180百万円 (88.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第3四半期	28.22	26.05
2021年12月期第3四半期	48.75	43.73

(注) 2021年3月24日東京証券取引所マザーズ市場に上場したため、2021年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から2021年12月期第3四半期連結会計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第3四半期	2,049	1,408	68.7
2021年12月期	2,102	1,497	71.2

(参考) 自己資本 2022年12月期第3四半期 1,407百万円 2021年12月期 1,496百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年12月期	—	0.00	—	—	—
2022年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,128	14.5	121	△68.0	125	△67.3	78	△67.5	20.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期3Q	3,793,300株	2021年12月期	3,793,300株
② 期末自己株式数	2022年12月期3Q	82,690株	2021年12月期	ー株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期3Q	3,722,924株	2021年12月期3Q	3,722,001株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、国からの非常事態宣言による不要不急の外出自粛や各種事業に対する営業活動の自粛要請の影響もあり先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要事業であるデジタルトランスフォーメーション事業を取り巻く環境といたしましては、IT人材不足が今後ますます深刻化し、2030年には約45万人程度までIT人材の不足規模が拡大するとの推計結果が出ております。(出所:経済産業省委託事業「IT人材需給に関する調査」)

また、デジタルトランスフォーメーション(DX)のトレンドが進展する中、生産性の向上や業務の効率化を目的にクラウドファースト戦略を実行する企業が増える他、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行によって、「テレワークの導入」「デジタルビジネスの強化」などの喫緊の業務課題を解決するためにパブリッククラウドサービスを活用する企業も増加しております。2021年の国内パブリッククラウドサービス市場規模は前年比28.5%増の1兆5,879億円となりました。また2021年~2026年の年間平均成長率は18.8%で推移して、2026年の市場規模は2021年比2.4倍の3兆7,586億円になると予測されております。(出所:IDC Japan株式会社「国内パブリッククラウドサービス市場 産業分野別予測、2022年~2026年」)

このような環境のもと、当社グループのデジタルトランスフォーメーション事業においては人材確保とIT技術の教育により、開発体制強化に努めてまいりました。また、プラットフォーム事業においては新規ユーザー獲得のためのプロモーション施策を行ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高3,925,239千円(前年同期比19.1%増)、営業利益164,015千円(前年同期比39.6%減)、経常利益168,231千円(前年同期比38.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益105,052千円(前年同期比42.1%減)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① デジタルトランスフォーメーション事業

当事業においては、事業開始からM&Aを推進し、同時にIT人材の採用を行うことで開発体制の拡充を進めてまいりました。IT利活用の多様化・高度化に伴い拡大するIT需要を取り込み、各種Webシステム開発、スマホアプリ開発、クラウドインテグレーション等の案件を受注しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,631,443千円(前年同期比20.4%増)、セグメント利益(営業利益)は312,208千円(前年同期比16.7%減)となりました。

② プラットフォーム事業

プラットフォーム事業においては、「チャットで話せる占いアプリ-ウララ-」を主力としたスマートフォン向けアプリの企画開発・運営などに取り組んでおります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は308,196千円(前年同期比5.4%増)、セグメント利益(営業利益)は48,076千円(前年同期比27.4%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べて53,384千円減少し、2,049,258千円となりました。主な要因は、のれんが122,318千円、受取手形、売掛金及び契約資産が28,740千円、流動資産のその他に含まれる前払費用が11,925千円増加した一方、現金及び預金が237,789千円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べて35,704千円増加し、640,550千円となりました。主な要因は、賞与引当金が33,891千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べて89,089千円減少し、1,408,708千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が105,052千円増加した一方、自己株式を204,276千円取得したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当社が注力しているデジタルトランスフォーメーション事業において、クラウドインテグレーション事業の受注が当初の想定を下回り、売上高の伸びが減少したため、2022年12月期通期の業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日（2022年11月14日）公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	952,755	714,966
受取手形及び売掛金	561,024	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	589,764
仕掛品	18,401	15,175
その他	57,434	71,966
流動資産合計	1,589,615	1,391,874
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	54	6,949
その他	921	4,830
有形固定資産合計	976	11,780
無形固定資産		
のれん	464,339	586,657
その他	1,150	1,109
無形固定資産合計	465,490	587,766
投資その他の資産		
繰延税金資産	20,046	29,731
その他	26,514	28,105
投資その他の資産合計	46,561	57,837
固定資産合計	513,027	657,384
資産合計	2,102,643	2,049,258
負債の部		
流動負債		
買掛金	244,398	273,993
未払費用	107,472	115,883
賞与引当金	18,336	52,227
未払法人税等	109,401	8,503
その他	125,235	136,602
流動負債合計	604,845	587,211
固定負債		
その他	—	53,339
固定負債合計	—	53,339
負債合計	604,845	640,550

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	436,525	436,525
資本剰余金	483,525	460,029
利益剰余金	576,905	681,957
自己株式	—	△168,780
株主資本合計	1,496,956	1,409,731
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△471	△2,336
その他の包括利益累計額合計	△471	△2,336
新株予約権	1,313	1,313
純資産合計	1,497,797	1,408,708
負債純資産合計	2,102,643	2,049,258

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年9月30日)
売上高	3,297,064	3,925,239
売上原価	2,514,791	3,119,475
売上総利益	782,272	805,764
販売費及び一般管理費	510,758	641,748
営業利益	271,513	164,015
営業外収益		
受取利息	15	246
為替差益	900	2,028
補助金収入	2,643	1,790
業務受託料	—	240
営業外収益合計	3,559	4,305
営業外費用		
支払利息	1	88
営業外費用合計	1	88
経常利益	275,072	168,231
税金等調整前四半期純利益	275,072	168,231
法人税、住民税及び事業税	99,400	72,864
法人税等調整額	△5,784	△9,685
法人税等合計	93,616	63,179
四半期純利益	181,455	105,052
親会社株主に帰属する四半期純利益	181,455	105,052

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年9月30日)
四半期純利益	181,455	105,052
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△723	△1,865
その他の包括利益合計	△723	△1,865
四半期包括利益	180,732	103,187
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	180,732	103,187

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年2月24日開催の取締役会決議に基づき、自己株式100,000株の取得を行ったことにより、自己株式が204,095千円増加しました。また、新株予約権の行使に伴い自己株式17,390株を割り当てたことにより自己株式が35,495千円、資本剰余金が23,496千円減少しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が460,029千円、単元未満株式の買取りによるものも含めて、自己株式が168,780千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これによる、利益剰余金の当期首残高、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴う会計上の見積りに関して)

前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。これによる、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年1月1日 至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	デジタルトランス フォーメーション 事業	プラットフォーム 事業	計		
売上高					
クラウド インテグレーション システム	642,334	-	642,334	-	642,334
ソリューション	2,362,434	-	2,362,434	-	2,362,434
その他	-	292,295	292,295	-	292,295
顧客との契約から 生じる収益	3,004,768	292,295	3,297,064	-	3,297,064
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	3,004,768	292,295	3,297,064	-	3,297,064
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,500	-	12,500	△12,500	-
計	3,017,268	292,295	3,309,564	△12,500	3,297,064
セグメント利益	374,863	37,730	412,593	△141,079	271,513

(注) 1. セグメント利益の調整額△141,079千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2022年1月1日 至2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	デジタルトランス フォーメーション 事業	プラットフォーム 事業	計		
売上高					
クラウド インテグレーション システム	879,157	-	879,157	-	879,157
ソリューション	2,737,886	-	2,737,886	-	2,737,886
その他	-	308,196	308,196	-	308,196
顧客との契約から 生じる収益	3,617,043	308,196	3,925,239	-	3,925,239
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	3,617,043	308,196	3,925,239	-	3,925,239
セグメント間の内部 売上高又は振替高	14,400	-	14,400	△14,400	-
計	3,631,443	308,196	3,939,639	△14,400	3,925,239
セグメント利益	312,208	48,076	360,285	△196,270	164,015

- (注) 1. セグメント利益の調整額△196,270千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。